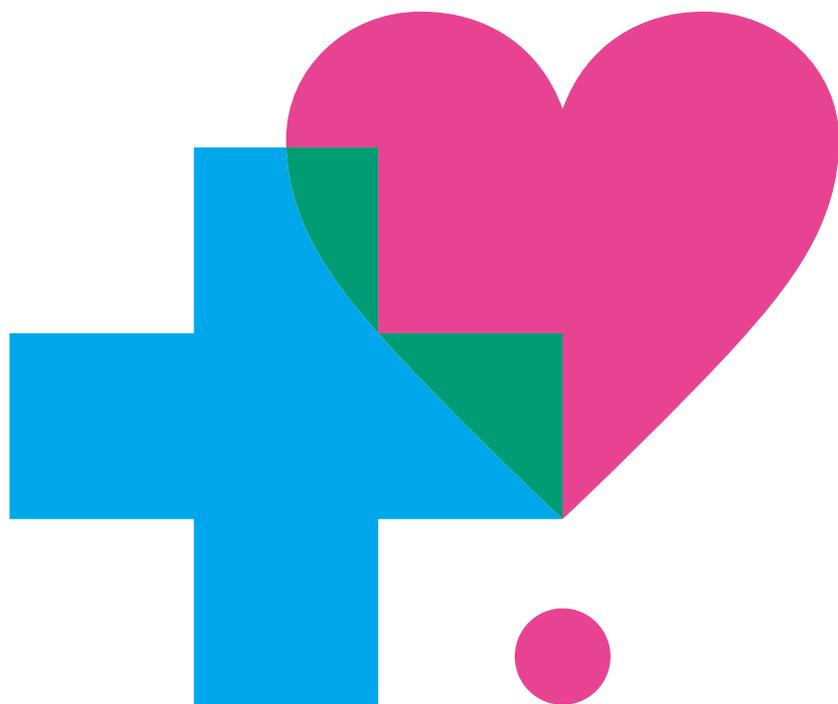


# 生命を守る人の環境づくり



医療従事者様サポートマークを策定

第29期 中間報告  
2020年4月1日 ▶ 2020年9月30日  
株主通信



シップヘルスケアホールディングス株式会社

生命を守る人の環境づくり

証券コード：3360

## マネジメントメッセージ



代表取締役会長 CEO

古川 國久



代表取締役社長 COO

小川 宏隆

### グループ理念

# SHIP

Sincere (誠実な心)    Humanity (「情」の心)    Innovation (革新者の気概)    PartnerSHIP (パートナーシップ精神)

グループミッション

生命を守る人の環境づくり

### 基本姿勢

し    せい    そく    だつ  
**至 誠 惻 怛**

「至誠」はまごころ、「惻怛」はいたみ悲しむ心を表し、この心を兼ね備えて生きることが人間としての生きる基本姿勢であり、当社グループの基本姿勢です。

### 2020年 スローガン

**一 点 突 破**

# 『進化』と『成長』はとまらない

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループが事業を展開しております医療・介護業界は、地域医療構想や医療・介護の連携推進、さらには、オンライン診療をはじめとするITの活用など、従来の枠組みを超えた大きな変革の中にあります。加えて、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、感染症に対しこれまでとは別次元の対策・対応が求められると同時に、受診抑制や手術件数の減少によって、医療機関の経営を圧迫しております。このような非常に厳しい環境の中において持続的成長を実現していくには、先を読み顧客ニーズをしっかりと捉えた「旬」の商品やサービスを提供し続けることが求められております。

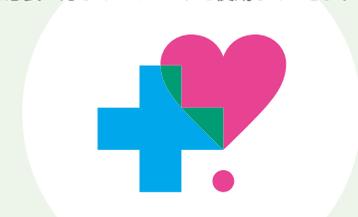
当期、当社グループは、2018年度より取り組みを開始いたしました中期経営計画『SHIP VISION 2020』の最終年度を迎えております。同計画では連結売上高5,000億円、営業利益210億円の達成を目指すとともに、次の成長に向けた経営基盤の強化・拡充を目標としております。この経営基盤の強化においては、ガバナンス、コンプライアンスなどの経営システムの整備はもちろんのこと、改めてSHIP理念を共有し、その下に役職員全員の力を結集していくことが重要であると認識しております。また、いつも相手の立場で考えて行動する「Your Company」としてのあり方を示すために、新型コロナウイルス感染症対策の最前線で対応されている医療従事者をはじめとする皆様を、全力で支援していく決意を表した「シップヘルスケアグループ 医療従事者様サポートマーク」を本年8月に策定いたしました。

当社グループはこのマークの下、激動する経営環境において「生命を守る人の環境づくり」の実践を通じ、グループの存在価値を高めていくとともに、中期経営計画の目標達成を目指してまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 「シップヘルスケアグループ 医療従事者様サポートマーク」を策定

シップヘルスケアグループは、日々新型コロナウイルス感染症と闘われている医療従事者をはじめ、様々な医療活動に従事されている医療従事者の皆様に感謝の気持ちを表し、ともに寄り添い、これからも皆様をサポートしていく決意を示した「シップヘルスケアグループ 医療従事者様サポートマーク」を策定いたしました。今後は、このマークの下、これまで当社グループを支えていただいている皆様を全力でサポートするとともに、シップヘルスケアグループの広報・広告活動で、必要に応じてこのマークを使用していきます。



医療従事者の皆様に寄り添う意志を表す「プラス」のかたち、医療従事者の皆様への感謝の意志を表す「ハート」のかたち、医療従事者の皆様を支える強い意志を表す「I」のかたち。

それらを組み合わせたオリジナルマークは、いかなる時でも医療従事者の皆様をサポートするという、シップヘルスケアグループの思いを表象し、医療従事者の皆様への感謝を視覚的に伝えるためのマークです。

# 中期経営計画『SHIP VISION 2020』の 完遂を目指す

中期経営計画『SHIP VISION 2020』の進捗

## 競争力を強化し、 時代のニーズへの対応を図る

中期経営計画においてコア事業の更なる強化に取り組む中、MSP事業で進めております次世代物流拠点「大阪ソリューションセンター」が2021年6月の本格稼働開始を予定し、同事業の競争力強化が進んでおります。また、TPP事業においては地域医療構想への対応を推進する中、IT分野の強化にも取り組み、時代のニーズに則したプロデュース能力の拡充を図っております。海外案件につきましてはパンデミックの影響を受け、バングラデシュの病院運営事業において工事が一時停止となりましたが、8月より工事を再開し、来年春頃のオープンに向け準備を進めております。また、ミャンマー事業は比較的堅調に推移いたしました。ヘルスケアサービス事業の中核となる大阪重粒子線センターの運営におきましては、治療の周知活動を通じ収益基盤固めに努めております。新しい取り組みとして、製造機械、原材料まで国産にこだわった医療基準の日本製サージカルマスク「SHIPマスク」をPB商品として発売し、低濃度オゾン発生装置「エアネス」のラインアップを増やすなど、新たな市場の開拓を進めております。

当社グループは、長期的な戦略と当期の業績が結び付く施策の両面において全力で取り組みを進めております。

### セグメント別取り組み

トータルパック プロデュース事業	地域医療構想への対応を進めるとともに、感染症対策関連の受注拡大を図る。
メディカル サプライ事業	「大阪ソリューションセンター」による差別化を図ると同時に、感染症対策部材などの安定供給をより一層進める。
ライフケア事業	高稼働率を維持しながら、徹底した感染症対策、入居者の方の健康管理に引き続き注力。
調剤薬局事業	新たなサービスモデルを構築すると同時に、M&A等により収益力強化を進める。
ヘルスケア サービス事業	既に立ち上がったサービスの運営強化とバングラデシュ病院運営PJの立ち上げ。大阪重粒子線センターの稼働率向上を図る。

### 業績について

#### コロナ禍において、利益は計画値を上回る

当上期の当社グループが属する医療・介護業界は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な制約を受け非常に厳しい状況が続いております。このような中、当社グループの各事業におきましては、ライフケア(LC)事業が引き続き高い入居率を維持し、調剤薬局(PH)事業も上期後半より受診抑制が和らいだことにより、堅調に推移いたしました。また、トータルパックプロデュース(TPP)事業においては、プロジェクト案件が例年通り下期偏重の傾向にある中、計画していたプロジェクトを予定通り計上しております。メディカルサプライ(MSP)事業においても、コロナ禍において、受診抑制・手術件数減が見られる中で、安定供給に努め、比較的堅調に推移いたしました。この結果、売上高は計画値を8.0%下回ったものの、収益面においては営業利益が計画値比13.5%増、親会社株主に帰属する当期純利益が計画値比17.8%増となりました。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に関連する案件獲得など、中期経営計画の目標値達成に向けて全力で取り組んでまいります。

(単位：百万円)

業績結果	期初予想 (2020年5月12日発表)	2020/9実績 (当第2四半期)	増減率
売上高	240,000	220,731	△8.0%
営業利益	6,900	7,832	13.5%
経常利益	6,900	8,268	19.8%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	4,000	4,711	17.8%

### 変化に強い企業体質の構築

#### 変化を読んだ事業展開と本質の追求

当社グループは、これまでの成長において様々な環境の変化に適応してまいりました。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大により、今までのライフスタイルは変化を余儀なくされ、社会全体の様々な仕組みが大きく変化してきております。当社グループにおきましても、この激動の変化に対応すべく、グループ全体のIT環境の整備や多様な資金調達手段の確保等、経営基盤の強化を進めております。

当社グループの事業領域がヘルスケアであることから、社会が抱える“感染症対策”における様々なニーズを捉え、それらの課題解決に尽力しております。当社では、従来より販売していた提案型商品である低濃度オゾン発生装置「エアネス」の新ラインアップやサージカルマスク「SHIPマスク」等のプライベートブランド商品の企画、病院における空調整備の提案等、従来の提案に止まらない、変化を読んだ新企画を展開しております。この変化をチャンスと捉え、新しいことへ積極的にチャレンジしてまいります。

しかし、このような大きな変化がある中でも「本質」の大切さは変わりません。グループ理念である「SHIP理念」やグループミッション「生命を守る人の環境づくり」をグループ全体で再認識し、変化する環境であるからこそ本質を追求することで、当社の本業を通じた社会課題の解決を全うしてまいります。

## 社会的使命の実践

# 企業活動を通じた社会との共通価値の創造

## 新たに「環境・感染・防災」を対象とした第6セグメントを企画

当社グループは、「生命を守る人の環境づくり」をミッションに掲げ、5つの事業セグメントを通じてその実践に取り組んでおります。こうした中、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、当社グループが事業を営む分野においても取り組むべき社会課題が浮き彫りになり、グループが掲げるミッションからも、この課題解決に尽力すべく第6のセグメントの構築を企画いたしました。同セグメントは「環境・感染・防災」(KKB)を軸に、良好な環境づくり、感染・防災対策の医療機器・器材、防災備蓄品、サービスの提供を行ってまいります。

当社グループは、このような活動を通して社会の持続可能性に貢献していくとともに、グループの長期的成長を目指してまいります。

### 新型コロナウイルス感染対策で需要急拡大

#### 低濃度オゾン発生装置「エアネス」のラインアップを拡充

新型コロナウイルス感染症の脅威が続く中、医療施設などに限らず身の回り空間の除菌やウイルス除去への要望が高まっております。「エアネス」が発する「オゾン」という物質は、インフルエンザウイルスの不活性化などに効果があるとされていますが、新型コロナウイルスの不活性化への効果に対しても、大学・専門機関より研究結果が発表され、注目されています。当社グループでは、この「エアネス」のラインアップを強化し、社会課題への貢献を目指してまいります。

**Airness II**



**Airness S**

**Airness Pocket**



エアネス専用サイト ▶ <https://airness.jp/>

### 国産・高機能「SHIPマスク」の販売を開始

#### 感染症対策として必要な医療消耗品を安定供給

新型コロナウイルス感染症の蔓延によりマスク不足が起こる中、医療機関等へのマスクを始めとする医療消耗品の安定供給は、当社グループの使命であります。この使命を果たすべくOEM生産による「SHIPマスク」の供給・販売を実施しております。生産は、衛生用品製造機械のトップメーカーに委託し、多くの特長を備えた高機能マスクとなっております。当社グループは、今後も供給の安定化を図るための取り組みを強化してまいります。



医療現場で活躍する国産、高機能マスク

### SDGsへの取り組み

当社グループは、社会的使命の実践に当たり、SDGsへの貢献も進めております。グループの理念でもある「パートナーシップ」(SDGs目標17)を基本姿勢に、ヘルスケア業界のリーディングカンパニーとしてSDGs目標3「全ての人に健康と福祉を」を中核目標として大きく貢献してまいります。

### 当社におけるSDGsの位置付け



中核目標



基本姿勢

### 軽量で組み立てが簡単な段ボール隔離部屋の提供

#### 感染拡大防止に向けて医療機関のニーズに応える

新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、医療機関における院内感染の防止と的確な治療の実践が急務となっております。株式会社セントラルユニでは、この課題を解決するために軽量で組み立てやすい特殊ダンボールを使用し、陰圧環境下で患者の遠隔モニタリング、機器類の遠隔操作を可能とし、屋内、屋外を問わず設置できる隔離部屋の開発を他企業・大学と共同で進め、2021年春までに製品化を目指しております。この取り組みは、日本医療研究開発機構の令和2年度「ウイルス等感染症対策技術開発事業」に採択され、感染症対策として期待されております。



外来・病棟ケアユニット

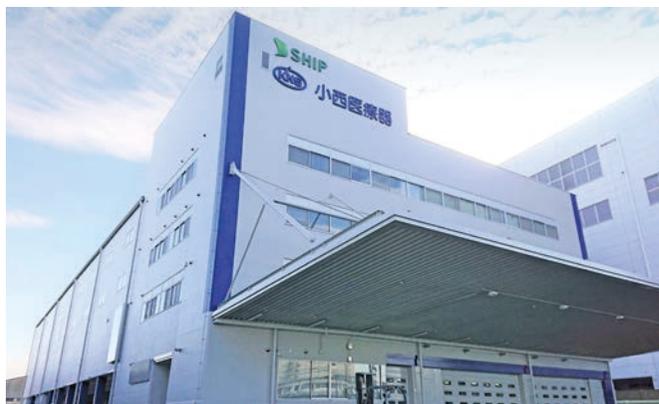
#### ● 段ボール院内隔離部屋の特徴

- 1 安価軽量で現地設営が容易な基本ユニット  
安価で軽量かつ強度が高く、設営が容易なハニリアルダンボールを使用
- 2 感染症診察に必要な空調設備、抗ウイルス機能  
抗菌・抗ウイルス機能、感染症診察に必要な空調設備を導入
- 3 遠隔モニタリング、遠隔操作が可能な構造  
生体情報モニターや人工呼吸器からの医療情報を遠隔モニタリング、点滴の投与量を遠隔で操作できる機器も導入可能

## トピックス

### 大阪ソリューションセンターが 2021年春より正式稼働

医療物流を革新し、MSP事業の競争力強化を推進



大阪ソリューションセンター外観

医療業界のサプライチェーンに革新をもたらす大阪ソリューションセンターが、年内に竣工式を執り行い、2021年6月より本格稼働を予定しております。同センターは、電波を用いてデータを読み取るRFIDを活用したオート機能推進倉庫として、医療材料供給工程の効率化と管理精度向上を実現いたします。また、当社グループにおいては、同センターの稼働に併せ、MSP事業の主力であるグリーンホスピタルサプライ株式会社、小西医療器株式会社、セイコーメディカル株式会社の3社を皮切りに商品マスターの統一を含めた物流管理の効率化を図っており、他社との差別化とともに収益力の向上を図ってまいります。今後、関西圏の医療機関より導入を進め、安定的運用を図る中で、更なるMSP事業の拡張を目指してまいります。

#### ● 今後のスケジュール

2020年12月10日	竣工式
2021年3月	内覧会(予定)、自動機器設備納入完了 一部取引先より運用開始
2021年6月	本格稼働

### 大阪重粒子線センターの治療件数が増加

重粒子線治療の保険適用を受け、啓蒙・周知活動を強化



大阪重粒子線センター外観

2018年4月に前立腺がんや頭頸部がんなどを対象に公的医療保険の適用が拡大したことに伴い、より多くのがん患者の皆様に、切らずに、痛みもなく、高齢者にもやさしい、重粒子線がん治療を受けていただく機会が増加しました。特に大阪重粒子センターは、交通の便も良い都心部に所在し、日常生活を送りながら日帰りでの治療を受けられる利便性の高い施設であり、開設以来2020年9月末時点で911人の方が治療を受けられ、がんを克服されております。

昨今の状況の中、大阪重粒子線センターを運営しております公益財団法人では、安心・安全な重粒子線治療を公益に資すべく安定して運営が行えますよう、寄附金の募集を行っております。同公益財団法人の目的・事業活動にご理解とご賛同をいただき、寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

公益財団法人 大阪国際がん治療財団  
〒540-0008 大阪市中央区大手前3-1-10  
TEL 06-6947-3210

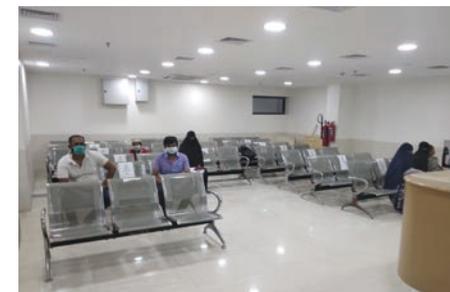
### 2021年春のグランドオープンを目指し 準備を再開

パンデミックの影響を受けたものの、最終工事が進行



外来棟  
外観

日系企業として初となる、海外での病院建設・運営を行うバングラデシュでの病院運営事業は、新型コロナウイルスによるパンデミックにより、一時期工事停止となっておりましたが、8月より工事を再開し、現在は工事の最終段階に入っております。この間、バングラデシュ政府よりコロナウイルス感染患者の受け入れを要請され、コロナ専門病院として、これまでに約350名の治療に当たってきました。10月以降は、このコロナ専門病棟を確保しながら、一般診療を再開し、2021年春頃のグランドオープンに向けて準備を進めております。本プロジェクトの開始時点では、新型コロナウイルス感染症の発生は想定しておりませんでした。この経験をノウハウに変え、当社事業の輪郭をさらに広げてまいります。



院内風景

## トピックス

### 配当性向30%以上の確保と併せ、自己株式取得を継続

当社は、株主還元強化策のひとつとして中期経営計画に基づき、3年で合計60億円を目標に自己株式を取得しております。本年度は9月末時点で約10億円の取得を完了し、2021年3月までに残り10億円分を取得してまいります。

#### 自己株式取得状況

中期経営計画			
2019.3	2020.3	2021.3	
20億円の自社株買い	20億円の自社株買い	20億円の自社株買い	
30億円取得	10億円取得	10億円取得	10億円取得予定 (2020/9末現在)

### 2023年満期ユーロ円建転換社債型 新株予約権付社債の転換価額の調整

2018年12月に発行いたしました「2023年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債」につき、第28期(2020年3月期)定時株主総会において、2020年3月期の年間配当が1株につき75円と決定されたことに伴い、同社債の転換価額調整条項に従い、当該転換価額を調整いたしました。

#### 転換価額の調整

銘柄	調整前転換価額	調整後転換価額
2023年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債	5,272.50円	5,260.20円

### 資金需要に機動的な対応を可能にするため、 200億円を上限とする社債発行登録を提出

業界環境が激動する中、財務基盤の一層の安定を図り、積極的な投資を可能とするために、機動的な有価証券の募集・売り出しを可能とする「発行登録制度」を利用し、上限200億円の社債発行登録を2020年9月に関東財務局に提出いたしました。

#### 発行登録の概要

提出日	2020年9月17日
発行登録の対象とした募集有価証券の種類	社債
発行予定期間	2020年9月26日から 2022年9月25日まで
発行予定額又は発行残高の上限	20,000百万円

### 「ガンバ大阪」の感染症拡大防止に貢献

#### パートナーデーでのコロナ対策に協力

当社がダイヤモンドパートナーを務めるガンバ大阪の「シップヘルスケアパートナーデー(8月29日)」において、新型コロナウイルス感染症拡大防止に協力いたしました。VIPエリアの受付スペースにおいて、顔認証付き検温器「クイックハイジーンターミナル」を設置しスムーズな入場を可能にするとともに、VIPルーム内に、低濃度オゾン発生装置「エアネス」を設置し、コロナ対策に取り組みました。当社グループは、このような活動を通じ、グループ理念に基づく社会への貢献を進めてまいります。



ガンバ大阪公式YouTubeにて取り組みを紹介



VIPラウンジ



VIP受付のクイックハイジーンターミナル

## 株主アンケート集計結果

### アンケートへのご協力ありがとうございました。

第28期株主通信において株主の皆様へのアンケートを実施いたしました結果、424名の方々よりご回答を頂戴いたしました(2020年7月31日現在)。ご協力を心より感謝申し上げます。

集計結果や株主の皆様のお声の一部を、ご紹介いたします。

#### 当社株式の今後の保有方針をお教えてください。



#### 当社経営に関して、何を重視すべきと思われますか？



#### その他様々なお意見の一部

- 新型コロナウイルス対策の「エアネス」に注目しています。
- コロナに負けず、頑張ってください!
- より一層のマネジメント力の強化と組織強化に期待
- 「生命を守る人の環境づくり」を引き続き頑張ってください。
- サステナビリティ経営の更なる推進を願います。
- 各セグメントが有機的に結合し、コミュニケーションを取り合って進歩、発展を

今回のアンケートにおきましても、株主の皆様より多くのご意見・ご要望を頂戴いたしました。今後もシップヘルスケアグループへのご理解をより一層深めていただけますようIR活動にも積極的に努めてまいります。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

# 会社情報 (2020年9月30日現在)

## ● 会社概要

商号 シップヘルスケアホールディングス株式会社  
 設立 1992年8月  
 代表取締役会長 CEO 古川 國久  
 代表取締役社長 COO 小川 宏隆  
 資本金 155億5,301万円  
 決算月 3月  
 従業員数 連結 6,832名(正社員) 12,990名(従業員)  
 本社所在地 〒565-0853  
 大阪府吹田市春日3丁目20番8号  
 TEL: 06-6369-0130  
 FAX: 06-6369-3191

## ● 役員

代表取締役会長	CEO	古川 國久
代表取締役副会長		小西 賢三
代表取締役社長	COO	小川 宏隆
代表取締役副社長		大橋 太
取締役副社長		沖本 浩一
専務取締役		小林 宏行
専務取締役		横山 裕司
取締役		島田 正真
取締役(社外)		海野 精一郎
取締役(社外)		今別府 敏雄
取締役(社外)		伊藤 文代
常勤監査役		細川 賢治
常勤監査役(社外)		岩元 廣志
監査役(社外)		中尾 秀光
監査役(社外)		大山 博康

# 株式関連情報 (2020年9月30日現在)

## ● 株式の状況

発行可能株式総数.....64,000千株  
 発行済株式総数.....50,834千株  
 株主数.....3,877名

## ● 株式分布状況

株式分布状況(株主数別)



個人・その他	3,467名	89.42%
外国法人等	296名	7.63%
金融機関	51名	1.32%
その他法人	42名	1.08%
金融商品取引業者	20名	0.52%
自己名義株	1名	0.03%

株式分布状況(株式数別)



外国法人等	17,381千株	34.18%
金融機関	15,111千株	29.73%
個人・その他	8,441千株	16.61%
その他法人	6,174千株	12.15%
自己名義株	3,659千株	7.20%
金融商品取引業者	65千株	0.13%

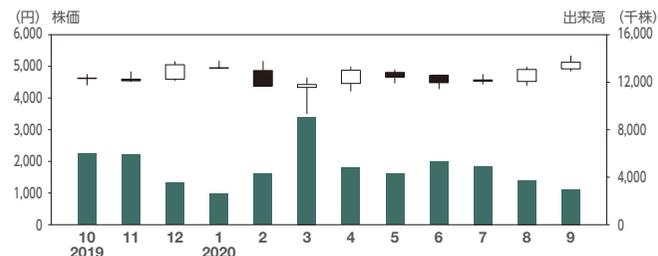
※ 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

## ● 大株主の状況

	[持株数]	[持株比率]
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,097千株	8.69%
株式会社コクコー	3,988千株	8.46%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,831千株	6.00%
春日興産合同会社	1,400千株	2.97%
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	1,398千株	2.96%
全国共済農業協同組合連合会	1,376千株	2.92%
JP MORGAN CHASE BANK 380055	1,306千株	2.77%
古川 國久	1,236千株	2.62%
古川 幸一郎	1,230千株	2.61%
GOVERNMENT OF NORWAY	1,024千株	2.17%

※ 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。 ※ 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

## ● 株価・出来高の推移



# 役員紹介 (2020年9月30日現在)



代表取締役会長 CEO 古川 國久  
 代表取締役副会長 小西 賢三  
 代表取締役社長 COO 小川 宏隆  
 代表取締役副社長 大橋 太



取締役副社長 沖本 浩一  
 専務取締役 小林 宏行  
 専務取締役 横山 裕司  
 取締役 島田 正司



取締役 海野 眞史  
 取締役(社外) 佐野 精一郎  
 取締役(社外) 今別府 敏雄  
 取締役(社外) 伊藤 文代



常勤監査役 細川 賢治  
 常勤監査役(社外) 岩元 廣志  
 監査役(社外) 中尾 秀光  
 監査役(社外) 大山 博康

お問い合わせ・資料請求等は、下記まで・・・

〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号  
 TEL:06-6369-0130 (IR窓口) FAX:06-6369-3191

URL(ホームページアドレス)

<https://www.shiphd.co.jp/>

英文ホームページはこちら <https://www.shiphd.co.jp/en/>  
**English website**

### For Foreign Investors

SHIP HEALTHCARE HOLDINGS, INC. provides English financial report produced by Shared Research Inc. Please check

<https://sharedresearch.jp/en/3360> to view the report.



▶ In-depth Company Report Link to Shared Research

## 業績の概要

### ○ 主な経営指標の推移[日本基準](連結)

(単位: 百万円)

	2018/3	2019/3	2019/9	2020/3	2020/9 当第2四半期	2021/3 (通期予想)
売上高	425,566	444,048	242,232	484,395	220,731	500,000
営業利益	18,259	17,952	10,081	18,794	7,832	21,000
経常利益	18,935	18,532	10,999	19,931	8,268	21,000
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	10,350	11,236	6,693	11,803	4,711	12,100
総資産	285,181	299,212	304,572	308,873	300,421	—
純資産	102,354	97,734	102,101	104,681	107,026	—

### ○ セグメント情報 (2020年4月1日～2020年9月30日)

#### トータルパックプロデュース事業

トータルパックプロデュース事業におきましては、前第2四半期では例年になく大型プロジェクト案件の計上が上半期に集中し、一部メーカー系における消費税増税前の駆け込み需要等により好業績でありました。一方、当第2四半期におきましては、新規連結したミャンマーの医療機器販売子会社の業績が寄与したものの、例年通りプロジェクト案件が下期偏重の傾向で推移いたしました。  
この結果、売上高は36,765百万円(前年同四半期連結累計期間比31.7%減)、セグメント利益(営業利益)は2,878百万円(前年同四半期連結累計期間比46.8%減)となりました。

#### 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、薬価改定の影響がありましたが、当第2四半期は期初と比較して医療機関受診抑制が和らいだことに加え、感染症対策商品の販売強化、経営効率化等により、業績は堅調に推移いたしました。  
この結果、売上高は13,205百万円(前年同四半期連結累計期間比1.3%減)、セグメント利益(営業利益)は1,299百万円(前年同四半期連結累計期間比1.5%増)となりました。

#### メディカルサプライ事業

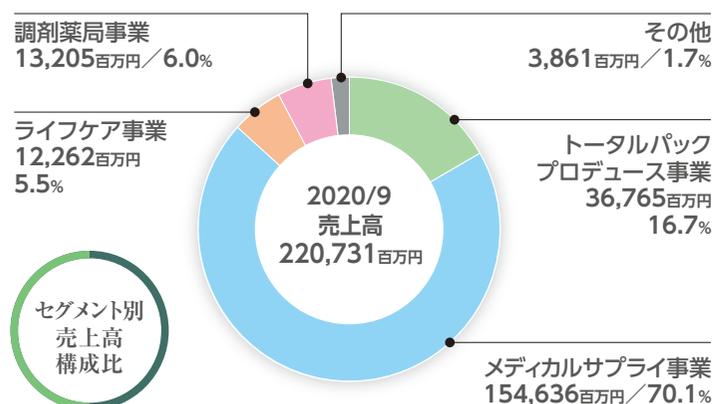
メディカルサプライ事業におきましては、グループ内の連携及び経営効率化により、償還価格改定の影響を受けながらも業績は堅調に推移した一方、期初の新型コロナウイルス感染症拡大による受診抑制や手術件数の減少等がもたらした診療材料需要の一時的減少の影響が残る結果となりました。  
この結果、売上高は154,636百万円(前年同四半期連結累計期間比3.7%減)、セグメント利益(営業利益)は2,308百万円(前年同四半期連結累計期間比6.0%減)となりました。

#### ライフケア事業

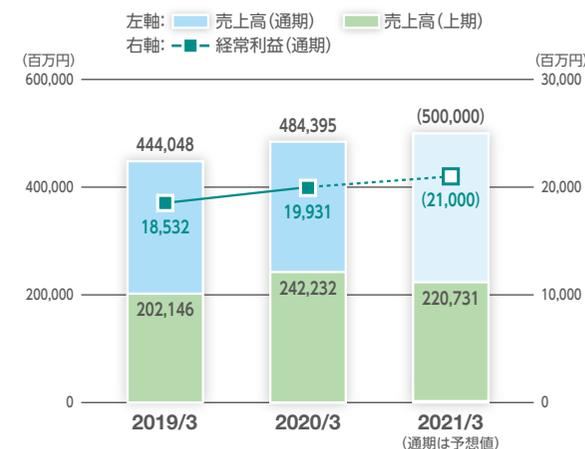
ライフケア事業におきましては、全国一体経営による経営効率化が進むとともに、高い入居率を維持することができ、順調に推移いたしました。  
この結果、売上高は12,262百万円(前年同四半期連結累計期間比3.4%増)、セグメント利益(営業利益)は1,139百万円(前年同四半期連結累計期間比27.6%増)となりました。

#### その他

その他におきましては、建物総合管理会社の業績が新たに寄与し、堅調に推移いたしました。  
この結果、売上高は3,861百万円(前年同四半期連結累計期間比52.8%増)、セグメント利益(営業利益)は305百万円(前年同四半期連結累計期間比57.3%増)となりました。



### ○ 業績トレンド



## 株主メモ

事業年度 4月1日～3月31日  
 期末配当金受領 3月31日  
 株主確定日 3月31日  
 定時株主総会 毎年6月中  
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 及び特別口座の口座管理機関  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 TEL 0120-094-777 (通話料無料)  
 上場証券取引所 東京証券取引所  
 公告の方法 電子公告によりおこなう  
 公告掲載URL <https://www.shiphd.co.jp>  
 (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。